

放送教本『初等国語講座』について

방송교본 “초등국어강좌”에 관해서

上田崇仁

요약

일제시대의 국어(일본어)교육에서는 학교교육만 아니라 라디오를 사용한 교육도 있었다. 이것은 1936 년에 시작해서 1945 년까지 계속했다. 방송의 내용은 지금까지 주로 교과서를 찾을 수 없다는 이유로서 불명이었다. 하지만 2005 년 9 월에 나가노현에서 조사한 결과, 거기서 한편의 교과서가 있다는 것이 알았다. 본 논문에서는 1943 년의 방송 교과서를 2 종류 비교하면서 그 내용의 변화와 그 변화의 이유를 검토한다.

0.はじめに

社団法人朝鮮放送協會が、当時日本の植民地であった朝鮮半島においてラジオを利用した「国語講座」の放送を開始したのは、1936（昭和 11）年のことである。1936 年には、内地で 2.26 事件が勃発している。朝鮮では、南次郎が新しい総督として赴任した年にあたる。彼の治世下では、創氏改名、志願兵制度の導入が行われた。ラジオ「国語講座」は 1945 年の終戦まで継続していたことが当時の新聞のラジオプログラム欄からうかがえる。

筆者は、平成 15 年度より、文部科学省の科学研究費補助金を受け、日本植民地で放送された語学講座「国語講座」について調査を進めてきた。

上田（2002）で示したように、植民地朝鮮で放送された語学講座の中で「国語」は最後発の番組であった。「国語」講座が最後発番組となった理由について詳細に検討するための材料が不足しているが、次の 3 つの要素が大きく関わっていると考えられる。それは、「朝鮮人世帯へのラジオ自体の普及率」、「朝鮮人における「国語」普及率」、「建前的な「国語」教育ではなく、徴兵や徴用に備えた実質的な「国語」教育の必要性の高まり」である。この 3 つの要素がある程度整った時期が 1936 年という時期になったのではないかと推測している。

本稿では、この要素のうち、第三の要素について検討を加えたいと考えている。その手がかりとなるのは、ラジオ「国語講座」の二つのテキストである。毎日申報に 1943 年 2 月から掲載されたテキストの抜粋と、2005 年 9 月長野県駒ヶ根市の市立図書館で発見した『放送教本 初等国語講座』である。前者は 1943 年 2 月に放送されていたものであり、後者は 1943 年 12 月に発行されたものである。前者が新聞に掲載されていた抜粋で、後者はテキストの実物であるということからわかるように、この両者から得られる情報量が異なっているため、すべてを比較検討することはできない。

そこで、ここでは両者の新出語彙の比較とそこに見られる変化、その理由を中心に検討を進めたいと思う。

1. 『毎日申報』掲載のテキスト抜粋欄に見る概要

『毎日申報』掲載のテキスト抜粋欄は、その形態から2種類の番組が連続して掲載されていると考えるのが妥当であろう。一つは、2月12日の第22日から掲載されたもので、こちらは『初等国語教本』と書かれていることから、先に挙げた『初等国語講座』のテキストであることが推測できる。一方、4月7日から掲載されたものは、表記がひらがなによる歴史的仮名遣いになっていることから、別の番組、「国語会話の時間」のテキストではないかと考えられる。

ここでは、まずその二つを区切る形で概要を抑えておきたい。

①初等国語講座

22課	四方 ニシ キタ ヒガシ ミナミ
23課	不明
24課	不明
25課	曜日 銀行 魚ツリ 土曜日 一週 商売 遠足
32課	冬 以上 鏡 氷スベリ キセツ 景色 銀世界
33課	アイサツ 冷水マサツ 新体制 習慣 健康法 来年
34課	病氣 昨日 頭痛 鼻ジル 熱 涙 食欲 薬
35課	昼 ヨナベ 職場 イソガシー 夜
36課	職人 熱心 年功オ積ム オソラク 骨ガ折レル シンボー
37課	電車 コミアッテ タイテイ 爽快 乗物 カエッテ 人通りガスクナイ
38課	床屋 ヒゲ カミ リョーキン 御苦労サン
39課	風呂 ヌルイ セナカ オカゲサンデ チョード 水オウメル 石鯰
40課	手紙 硯 筆 墨 便箋
41課	郵便局 郵便函 矢張 切手 受取証
42課	市日 買う人 石首魚 鍋 売ル人 市場 海産物 シチリン
43課	シャツ ヨイ品 クツシタ 一足 茶色 オツリ
44課	動物園 猿 猛獣 象 虎 穀物

新出語彙のみを整理したが、1で示した語彙と極めて対照的であることがわかる。この問題については後ほど検討する。

②『国語会話の時間』

4月7日	いただきます ごちさうさま おそまつでした おぜん はし ちゃん おわん さら
4月9日	ごめん下さい いらっしゃいませ さようなら 御主人 奥様 坊ちゃん お嬢さん
4月12日	いってまいります いっていらっしゃい ただいま おかへりな さい いらっしゃいます 学校 幼稚園 役所

4月14日	乗る 降る 停留場 車掌 切符 乗換券
4月16日	これはいくらですか ありますか 下さい 高い 安い おつり
4月19日	水さう 火たたき 砂 とびぐち おしろ もんぺ ゲートル 防空がう
4月21日	春になりました 春風が吹く 花が咲く 美しい れんげう さ くら つぼみ
4月23日	野原 山 歩く 遠足 摘草 よもぎ すみれ たんぽぽ
4月26日	畑 耕す 種 蒔く 苗 植ゑる 鋤 日当り
4月28日	天長節 おめでたう 国旗 お祝ひ 神宮神社 おまゐり 式
4月30日	今月のおさらひ あいさつ かひもの でんしゃ 季節
5月3日	数 かぞへる 幾つ 倍 半分 かぞへ方
5月5日	時計 時間 午前 午後 時・分・秒 半 何時ですか
5月7日	暦 一年 一週間 ついたち 昨日 今日 明日 明後日
5月10日	これ それ あれ ここ そこ あそこ
5月12日	どれ どこ どちら どなた 誰 何
5月14日	わたくし あなた 僕 君 お前 あの方 みんな
5月17日	裁縫 縫ふ 裁つ はさみ ものさし 針 糸 鋲
5月19日	料理 炊く 煮る 焼く 釜 鍋 包丁 俎板
5月21日	掃除 はく ふく はうき はたき ちりとり ざうきん
5月24日	洗濯 洗ふ 濯ぐ 干す 乾く 石鹼
5月26日	海軍記念日 ぐんかん ひかうき 軍人 おもんぶくろ おもん ぶん
5月28日	着物 たび 上衣 下着 帽子 着る はく かぶる
5月31日	今月のおさらひ 数 時間 こよみ 場所 呼び方 裁縫 料理
6月2日	方角 四方 東 西 南 北
6月4日	空 日 月 星 雲 日の出 夕焼
6月7日	家族 親 父 母 兄弟 姉 妹
6月9日	親戚 をち をば いとこ 先生 友だち 知り合ひ
6月11日	育てる 行儀 ならふ 言葉づかひ
6月14日	郵便局 郵便函 てがみ はがき 切手 書く 出す
6月16日	電報 小包 為替 書留 送る
6月18日	税を納める 貯金 国債 節約 銀行 あづける
6月21日	ありがたう おそれ入ります すみません どう致しまして 借 りる 返す
6月23日	します しませう しました しません です でせう でした
6月25日	なさい してください ごらんなさい ねがひます よろしうご ざいます かまひません しなければなりません
6月28日	夏 暑い 日傘 単衣 うち は 扇子
6月30日	今月のおさらひ 方角 家族 郵便 貯金
7月2日	色 赤い 白い 黒い 青い 黄色
7月5日	硯 墨 筆 紙 習字

7月7日	七夕 星祭 織女星 牽牛星
7月9日	勉強 予習 復習 よむ かく おぼえる
6月12日	決して 必ず どうしても きっと もしも ちっとも もっと
7月14日	たちまち やうやく なかなか どうとう だんだん
7月16日	する される させる してもらふ してあげる
7月19日	作物 稲 牟岐 穂 きうり 茄子 稔る
7月21日	海 波 沖 岸 港 砂浜
7月23日	湖 池 川 泳ぐ 漕ぐ 船
7月26日	仕事 はたらく てつだふ ぬひもの せんたく くさかり
7月28日	鋤 鋤 鎌 掘る 耕す 刈る
7月30日	今月のおさらひ 色 習字 勉強 仕事 作物
8月2日	人 男 女 大人 子供
8月4日	からだ あたま かほ 手 足 背中 お腹
8月6日	朝 昼 夜 明ける 暮れる 起る 寝る
8月9日	乗りもの 自転車 自動車 電車 汽車 乗る 降りる
8月11日	行く 来る 帰る 遠い 近い
8月13日	歩く 走る 通る 早い 遅い
8月16日	部屋 戸 障子 天井 床 窓
8月18日	机 椅子 箆笥 棚 鏡台
8月20日	家畜 牛 馬 鶏 豚
8月23日	見舞 病氣 罹る 癒る お加減はいかがですか
8月25日	訪ねる ごめん下さい いらっしゃいませ お入り下さい
8月27日	尋ねる 道 まっすぐ まがる おそれ入ります
9月1日	言ふ おっしゃる 聞く 伺ふ
9月3日	行く 来る 居る いらっしゃる おいでになる
9月6日	光 明るい 暗い あたたかい つめたい
9月8日	行 行儀 親切 正直
9月10日	高い 低い 広い 狭い 重い 軽い
9月13日	一昨日 昨日 今日 明日 明後日
9月17日	何処へ 何処から 何処に 何処で 何を 何が
9月20日	航空日 空 飛ぶ 飛行機 落下傘
10月1日	食べる 飲む 頂く 召上がる

それぞれの課で取り扱われている項目を見ると、トピックシラバスもしくは場面シラバスに配慮した構成になっていると思われる。もちろん、6月23日、6月25日、6月12日、7月14日、7月16日、9月1日、10月1日に見られるような文法シラバスでの整理も行われている。実際のテキストが入手できる前に番組内容について軽々に論じることはできないが、朝鮮で放送されていたプログラムは、それぞれ異なった目的を持っていた可能性が高い。

2. 『放送教本 初等国語講座』の概要

本稿では、先に述べたようにラジオ講座のテキストに取り上げられた語彙について検討していくが、その前にテキストを完全な形で確認できた『放送教本 初等国語講座』の概要を確認しておきたい。

以下の表は、科のタイトルと新出語彙及び新出文型について整理したものである。新出文型については、筆者が抜き出した。

課	課のタイトル	新出語彙（補充語）	新出文型
1	ニッポン	日本、日本人、萬歳、國旗、國旗掲揚、日ノ丸ノ旗、國家、君ガ代、紀元節、天長節、明治節、新年、此、今日	NはNです
2	テンノウヘイカ	天皇陛下、皇后陛下、勅語、宮城、宮城遙拜、繪、見エル、有ル	Nが見えます／有ります
3	カミサマ	神様、神社、神社参拜、才詣、鳥居、御手洗、拜ム、柏手、神棚、大麻、才供、祭、爲ル、打ツ、何、彼	NをVます 疑問詞「何」及びそれに伴う疑問文と答え
4	コクミン	國民、皇國臣民、男、女、大人、子供、農夫、漁師、商人、産業戰士、貴方、居ル	Nがいます
5	カゾク	家族、家、父、母、祖父、祖母、兄、姉、弟、妹、叔父（伯父）、叔母（伯母）、從兄弟（從姉妹）、子、孫、祖先、方、誰	疑問詞「どなた」「誰」及びそれに伴う疑問文と答え
6	ムラ	村、面、面長、面事務所、町、學校、駐在所、郵便局、金融組合、銀行、會社、住ム、言フ、名、真中、隣	連帶修飾句 ～といたします Nは（場所）の（位置）にあります
7	アイコクハン	愛國班、班長、班員、常會、最敬禮、默禱、申合事項、皇國臣民ノ誓詞、大詔奉戴日、何萬、今朝、集ル、移ル	動詞の過去 NにVます
8	ダイトウアセンサウ	大東亞戰爭、軍隊、陸軍、海軍、兵器、戰車、大砲、飛行機、軍艦、潜水艦、勝ツ、敵	複合助詞（取り立て詞）
9	グンジン	朝鮮、徴兵制、施ク、來年、	Nになります

		徴兵検査、少年飛行兵、海軍特別志願兵、立派ナ、軍人、千人針、送ル、慰問袋、兵隊サン、有難ウ、(兵役、入營、入隊)	NをVましょう
10	バウクウ	訓練警戒警報、防空、用意、出来ル、白イ旗、赤イ旗、水、水槽、砂、筵、火叩、梯子、鳶口、訓練空襲警報、發令、敵機來襲、爆彈投下、焼夷彈投下、年寄り、防空壕、避難、解除	Nはできます NがVされます
11	バウテフ	壁、耳、障子、目、間諜、何處、祕密、話、役所、工場、書物、下書、無闇、捨テル、紙屑、探る、物、始末、防諜、銃後、戦、油斷、大敵	(場所)にNがあります
12	カラダ	身體、強イ、鍛ヘル、御奉公、必要、ラジオ體操、頭、廻ス、運動、手、伸バス、足、舉ゲル、背中、眞直グ、胸、張ル、歩ク、(顔、鼻、口、頸、腹、背中、腕、腰、膝、指、骨、血)	Nで(具格) V(辞書形)+に(も)
13	ケンカウ	衛生、丈夫、飲物、喰物、着物、住居、清潔、毎日、規則、正シイ、暮ス、健康、病氣、罹ル、赤痢、チフス、恐ロシイ、傳染病、豫防注射、風邪、惡イ、咳、熱、特ニ、(藥、脉、養生、早起キ、深呼吸、體温計、胃病)	Vて、～ Nにします そうすれば Vやすい Vたり Vとき
14	スマイ	岡、部屋、日、當ル、屋根、藁葺、窓、山、川、庭、柿、木、梨、鳳仙花、花、咲ク、パカチ、土塀、裏、井戸、隣、門、戸、開ケル、入ル、(塀、垣根、瓦葺、柱、障子、便所)	Vています 尊敬(られる)
15	カグ	机、字、書ク、椅子、腰掛ケル、本、讀ム、箆笥、鏡	謙讓語 Vてから、～

		臺、髪、直ス、宅、参ル、膳、片付ケル、放送、積、受信機、目盛り、波長、家具、扱フ	Vつもりです
16	キモノ	揃ヘル、國民服、上衣、下袴、襯衣、戦闘帽、脚絆、朝鮮服、和服、持ツ、襦袢、下着、羽織、帶、浴衣、通學服、靴、下駄、履ク	Vてください
17	サイホウ	裁縫、仕事、縫ふ、針、彈丸、物差、反物、寸法、計る、鋏、裁つ、絲、通す、單物、裏、袷、綿入れ、綿、皺、伸す、鋺	な形容詞 Vために～
18	センタク	今日、天氣、洗濯、洗濯物、浸ス、石鹼、洗フ、苛性ソーダ水、煮ル、石、載セル、洗濯棒、叩ク、灰汁、使フ、垢、落ル、濯グ、絞ル、何時	Vておきます
19	シヨクジ	御飯、呼ブ、朝飯、頂ク、出征、蔭膳、味噌汁、副食物、漬ケ物、茶、御馳走様、御辨當、米、麥、粟、豆、味噌、醬油、砂糖、肉、魚、野菜、果物、粥、饅頭、代用食、晝飯、夕飯、茶碗、椀、皿、箸、匙	引用の「 」 Vていらっしゃいます
20	ダイドコロ	臺所、釜、炊ク、七輪、鍋、火鉢、藥罐、湯、沸ス、竈、薪、燃ヤス、炭、使ウ、温突、無煙炭、道具、キッチン、整頓、暗闇、間違ヘル、薪、節約、焚口、工夫	Vてあります Vように～
21	カヒモノ	御免下サイ、白菜、イクラ、匁、錢、大根、貫、入用、ダケ、結構、合セル、取ル、釣錢、左様ナラ、毎度、有難ウ	疑問詞「いくら」及びそれに伴う疑問文と答え 単位
22	ミオクリ	一緒、見送、汽車、私達、乗ル、乗合自動車、邑、驛、切符、枚、一列、竝ブ、静	Vに行きます ～ので Vことにします

		カニ、時、出ル、時間、驛前、停マル、降ル、待合室、軍服、姿、才目出度ウ、祝、萬歳、送ル、動ク、邑内、夕方	(時間)にVます 受け身
23	アイサツ	オ早ウ、天氣、一日、元氣、働ク、今日ハ、今晚ハ、急シイ、良ク、イラッシャル、上ル、皆サン、揃フ、始メル、終ル、オ寝ミ	無し
24	ミチヲタヅネル	一寸、伺フ、番地、邊、何方、申ス、角、右、曲ル、真直、藥屋、左	Vと、～
25	ハウモン	待ツ、大層、長イ、聞、御無沙汰、後、變リ、元氣、思ハズ、時間、御邪魔、伺フ、	敬語(特殊な形)
26	テガミ	手紙、拜啓、櫻、咲ク、スッカリ、春、宅、開拓村、安心、今度、卒業、是非、暫、見習、遣ル、都合、如何、知ラス、殿	無し
27	イウビン	宛ル、出ス、便箋、書ク、封筒、入レル、切手、貼ル、郵便箱、返事、急グ、支度、郵便局、電報、打ツ、頼信紙、朝、貴地	命令形
28	カハセ	金、世話、費用、爲替、組ム、料金、願フ、書留	～は～に～を送ります
29	デンワ	電話、先日、構フ、昨日、内地、此方、明日、満州、發ツ、豫定、午後、半、承知	V 予定です
30	テンキ	空、晴レル、雲、風、ソヨソヨ、吹ク、氣持、仕事、面白イ、運ブ、黒イ、雲、冷イ、雨、降ル、夕立、稲妻、光ル、雷、夜、月、星、輝ク	V かもしれません V 出しました
31	ノウゲフ	農業、種籾、苗代、播ク、作ル、田植え、涸レル、注意、田、草、拔ク、蟲、稻、	条件形

		米、實ル、穂、金色、垂レル、刈ル、稻扱、藁、刈、詰メル、今年、照ル、キット、豊作、勝ち抜ク、供出	
32	コウジャウ	工場、寄宿舍、有様、話、起床喇叭、一齊、起キル、廣場、朝禮、朝風、翻ル、仰グ、工場歌、歌フ、濟ム、工場長、訓話、受ケル、機械、轟々、廻轉、音、火花、次、兵器、額、背中、瀧、流レル、汗、歸ル	無し
33	ゾウサン	バリバリ、鑿岩機、岩、扶ル、カンテラ、薄暗イ、岩穴、美イ、鑛石、碎ケル、前線、鑛山、休、鐵、銅、掘ル、全部、持場、増産、職場、戦場	普通体 Vなければなりません
34	チョチク	貯蓄、我、身、屋、今、品物、負ケル、同ジ、一發、彈丸、債券、貯蓄、米英、討ち減ス、費用、億、銃後、務	Vなくてはなりません Vのです
35	ナフゼイ	榮エル、努、義務、兵役、納税、教育、守ル、必要、立派ナ、國民學校、建テル、鐵道、扱フ、納メル、税金、賄フ、期日、遅レル、納メル	無し

表からわかるように、語彙は時局を意識したものになってはいるものの、文型としては基本的な文型積み上げの形で整理されていると考えるのが妥当であろう。換言すれば、テキスト作成には日本語教育の知識を持った人間が関わっていたであろうことが推測できる。

テキストの校正は、文法シラバスに乗っ取ったと思われる一方で、時局を背景にした得意な語彙が採用されており、トピックシラバスとしての側面も併せ持っていると考えするのが妥当であろう。前者の文法シラバスを意識した構成は日本語教育の専門家が、後者のトピックシラバスを意識した構成は外部からの何らかの働きかけがあった可能性が否定できない。

3. 語彙比較

文法的な比較が可能な部分は非常に限られているため、語彙の出現について比

較検討したい。

毎日申報掲載のテキスト抜粋からは、「初等国語講座」については22開講のデータとの対象に限定されるが、日常生活に関する語彙が見られるのみで、特に軍や思想に関する語彙は新出語彙とされていないことがわかる。これは、「国語講座」の目的が、「国語」の普及、換言すれば、「生活の国語化」にあったといえるだろう。学校教育から離れた、日常生活のすべてを「国語」で乗り切れるように場面を設定し、語彙や文型を導入していったものと推測できる。

一方の「初等国語教本」では、冒頭からイデオロギー的な語彙が扱われている。日常生活にソクした語彙も新出語彙として扱われているが、第5課の「カゾク」や第6課の「ムラ」まで待たなければならない。後半は日常生活に関連する話題を提供し、それに即した語彙を扱っている。毎日申報掲載の「初等国語講座」も22課という後半からの掲載であることを考えると、ここで、語彙について比較検討することは危険を伴う。もう一つの「国語会話の時間」のテキストと思われる抜粋は冒頭部分の比較ができるとはいえ、番組が異なっていることは確かである。

少なくとも、新出語彙の扱いを総合的に比較したところ、1943年の前半と後半で導入される語彙に大きな変化が見られることは確かであろう。

4. 終わりに～語彙の変化は何を示しているのか

このテキストが発行された1943年は、朝鮮に、徴兵制が実施された年である。初等教育機関における教科書の内容はすでに軍国主義的なものになってはいたものの、軍国主義的なものになっていない段階の学校をすでに卒業した子どもたちへの教育は困難であっただろう。

軍や思想に係わる語彙の教育にラジオというメディアが注目されたと考えるのは容易である。

徴兵制が実施された8月1日を境に放送内容が激変したと考えるのが妥当であろう。1943年2月から放送されたラジオ講座は、日常生活に即した語彙を準備していたのに対し、1943年12月に発行されたラジオ講座のテキストは、日常生活よりも軍や思想にかかわる語彙を準備していたからである。しかし、文法的な配列は易から難へという段階を踏んでおり、この教材作成者の中に、日本語教育に携わっていた専門家が含まれていたことが予想される。

今後、放送に使用された教科書の発掘を継続し、放送内容の時系列的な変化を整理して考察して行きたいと考えている。

参考文献

上田崇仁(2000)『植民地朝鮮における言語政策と「国語」普及に関する研究』
広島大学大学院

上田崇仁(2002)「ラジオを利用した『国語』教育に関する研究－資料整理を中心に－」『広島女子大学国際文化学部紀要』第10号

上田崇仁(2003イ)「植民地朝鮮におけるラジオ『国語講座』－1945年までを通

時的に」『「文明化」における植民地支配』植民地教育史研究年
報第五号 皓星社

上田崇仁(2003 口)「植民地朝鮮に登場した新メディア『ラヂオ』と教育」『アジ
ア遊学』第54号 勉誠出版

上田崇仁(2004)「ラジオ「国語講座」と「国語」教育」『アジア社会文化研究』
第5号

上田崇仁(2006)「第四章 朝鮮でラジオは何を教えたのかーラジオを利用した「国
語」教育ー」『戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版

電波管理委員会(1951)『日本無線史』第12巻

橋本雄一(1998)「声の勢力版図」『朱夏』十一号

山口 誠(2001)『英語講座の誕生』講談社